

# カ タ リ ナ

学報

第53号



St. Catherine University

聖カタリナ大学 / 聖カタリナ大学短期大学部

2024. 12. 1



## 聖カタリナ学園創立100年の軌跡

学校法人聖カタリナ学園理事長 中田 婦美子



学園は2025年に創立100周年を迎える。1世紀の歴史的歩みを振り返るとき、1965年ローマで開催された第2ヴァチカン公会議の主要テーマとなった「刷新と適応」の原理について学ぶことが必要であると考へた。公会議では、大学における「刷新と適応」について、「精神的刷新は、外的活動の促進においても常に、主要な役割を果たすものであり、現代の必要性に対処してなされた最善の適応も、精神的刷新によらなければ、その効果は生じないのである。」と述べている。

本学の教育の原点は、スペインから来日したドミニコ会宣教師たちが、愛媛の地にカトリック学校の必要性を感じ、1925年にドミニコ会シスター達に美善女学校の経営を委託されたことに始まる。当時は、世界中の国々の覇権争いが拡大し、第2次世界大戦開戦前の混乱期の渦中にあり、日本はその後、満州、中国、アジア諸国に侵攻し、ついにアメリカ、イギリス、中国の連合国を相手に、悲惨な戦争状態に突入した。その後、広島、長崎への原爆投下を経て、1945年8月14日ポツダム宣言を受諾し、日本は降伏し終戦を迎えた。

### 1. 戦禍の中に誕生した教育とその後：

1948年、美善女学校の校名を松山女子商業学校と改めた時、当時の文部大臣であり、敬虔なカトリック信者であった田中耕太郎氏自身の筆による「内外一誠」の書画を賜った。それは今日に至るまで本学園の建学の精神の規範となっている。田中氏は戦後荒廃した日本の教育の根底となる「教育基本法の理論」の著者であり、この書は、戦後80年経過した現在においても日本の教育の最も必要な指針となっている。

ここで敗戦当時、一人のアメリカ人女性作家であるヘレン・ミアーズ氏が、その著書である「アメリカの鏡：日本」という本の中で次のように語っていることを紹介したい。「パールハーバー（日本軍による真珠湾攻撃）は、実はアメリカが仕掛けた経済戦争への日本の反撃だったのだ。すでにあらゆる点で連合国と闘う武器を失っていた日本が戦闘の狂気の中でアジア諸国の住民を虐殺した罪は、冷静に日本に原爆投下を命じた罪より重いのだろうか。」「アメリカは日本を裁くほど公正でも潔白でもない。」同氏のこの主張によって、日本占領連合軍

最高司令官であったダグラス・マッカーサーは、日本でのこの本の翻訳出版を禁止（1949）させたほどであった。

ミアーズ氏は、長年にわたり日本、中国に滞在し研究した歴史研究者として、あらゆる資料を分析し、あの太平洋戦争当時の日本がすでに戦線を交える武器も戦闘能力も喪失した状態で軍部の絶対的な権威が国を翻弄していた現実を把握していた。同氏はアメリカの鏡の中に映った日本の虚構の姿に対して、アメリカが行った徹底した報復行為が、アメリカの正義であったといえるであろうかと説いているのである。そこには著者の高潔で真摯な人類愛がみられる。

## 2. 教育における刷新と適応：

戦後日本が敗戦から立ち上がり、世界に範を示した平和宣言は、憲法第9条における次の条文であった。それは、「正義と秩序を基調とする国際平和を希求し、戦争による武力行使を永久に放棄する」ことであって、それは日本が常に堅持すべき宝なのである。2019年、教皇フランシスコは「平和の巡礼者」として日本訪問の際、広島、長崎において、「核兵器の使用は犯罪である。」と宣言された。2023年に開催された広島でのG7サミットにおいても、被爆国日本や多くの非保有国にとって、核兵器を保有せず、また使用しないという普遍的な正義を通す

べきであるとのメッセージを発信されたが、当事国である日本は核廃絶に対する確固たる意思表示をしなかった。さらに教皇は2024年イタリアで開催されたG7に出席され、「AIを利用した自律型致死兵器システム」の危険性に触れ、使用は禁止するように繰り返し強調されている。

世界中で戦闘と殺戮が繰り返されている現代社会、カトリック大学の果たすべき役割は何か。人類の幸福と平和のために、大学はそれぞれの専門分野において、また、国際間においてもその研究成果を交換し合い、そこに学ぶ学生たちと共に諸国間の平和共存を学ぶ使命を持っていると思う。

特に、カトリック大学の保護者といわれる聖ドミニコ会の教会博士聖トマス・アクィナスは、教育において「信仰と理性」がどのようにして唯一の真理に合致するかをより深く理解するように指導しなければならないと説いている。教皇は、「学術、文化がその固有の目的から離れて、政治的または経済的権力に従うことがないように本来の大学としての使命を全うしなければならない。」と述べておられる。

従って、本学が現代の必要性に適応するためには、それが必ず建学の精神に基づく刷新によってもたらされる時にのみ効果あるものとなることを想起しなければならない。

# ◆◇ St. Catherine News ◇◇

## ● 「現代人間学科」の設置について（正式決定）

聖カタリナ大学は、2024年6月20日付で文部科学大臣より学科設置の受理通知を受け、2025年4月より新学科「現代人間学科」を設置することが正式に決定しましたのでお知らせします。

現代人間学科では、社会学・社会福祉学を基礎に、心理学の視点も用いて、現代における多様な人間と社会の有り様を理解するとともに、それらの抱える諸課題を発見し、それらの課題の解決を統計学やデータサイエンスの知識も活用して探求することにより、持続可能な地域社会の営みに広く貢献できる人材の養成を目指して参ります。

また、現代人間学科では、社会学、心理学、社会福祉学、データサイエンスに関する多様な資格の取得も可能です。詳しくは大学HPをご覧ください。



## ●本学台湾人留学生2名「台北市との小中学校友好交流推進員」に任命

5月24日(金)、本学の台湾人留学生 TSAI MING HSI さん(社会福祉学科)と TSAI HSING YUAN さん(人間社会学科)が、「台北市との小中学校友好交流推進員」に任命され、委嘱式に参加しました。

台湾の文化を紹介し、日台交流と理解に努力してまいりますので、応援のほどよろしくお願いたします。



## ●本学学生が愛媛県障がい者スポーツ大会においてボランティア活動に参加

5月26日(日)、愛媛県総合運動公園陸上競技場にて開催された愛媛県障がい者スポーツ大会の陸上競技の部において、前期開講科目「障がい者スポーツ」を履修している健康スポーツ学科3、4年生36名がボランティアスタッフとして参加しました。

コロナ禍により大会の規模が縮小されておりましたが、今年度より従来の形に戻り、全県からスポーツに親しみ障がいのある選手が一堂に会し、それぞれの記録に挑戦する機会として大会が行われました。

学生たちは「召集」「誘導」「運搬」の役を担い、それぞれの部署において障がいのある選手との交流を図りながら、選手が実力発揮することができるようサポートする様子が見受けられました。

また、試合を間近で観ることにより、パラスポーツは障がいのある人だけがおこなうものではなく、健常の人でもおこなうことができたり、障がいの有無にかかわらず多様なスポーツとのかかわりを持つことができる、ということを知るよい機会となりました。



## ●2024年度愛媛県社会福祉法人経営青年会と学生との意見交換会

6月1日(土)、昨年度に引き続き(恒例となった)、愛媛県社会福祉法人経営青年会と社会福祉学科を中心とした学生との意見交換会を実施しました。この会は毎年グループワーク形式で行われ、学生にとって「福祉現場の実際」や「求められる人材像」などについて、経営青年会の皆さんに質問できる機会となっています。他方で経営青年会の皆さんには、各法人の社会福祉実践を学生に紹介するとともに「今の学生が就職先に求めていること」を聴ける場としてとらえていただいております。今年度も愛媛県内から10法人に参加いただきました。

グループワークでは活発な意見交換が行われ、最後には「ぜひ来年度も開催してほしい」という声が双方から上がり、今後も本学と社会福祉現場を結び取り組みの一つとして継続される予定です。



### ●第3回看護学科ホームカミングデーを開催

7月6日(土)、松山市駅キャンパスで「第3回HOME COMING DAY」を開催しました。

県内外の病院や行政、学校で活躍している看護学科の1期生から4期生までの卒業生25名が松山市駅キャンパスに帰郷し、在学生と教員との交流を深めました。

在学生との交流の中では、日々活躍している卒業生の経験を在学生は目を輝かせながら聞いていました。また、日々過酷な医療、行政の場で働く卒業生たちに向けて精神看護専門看護師の白柿准教授より「看護師の心の健康とセルフケア」について講義を行いました。

在学生と卒業生も明日からの頑張りの糧になったと、笑顔いっぱいこの日を終わることができました。参加してくれた卒業生の皆様、ご参加頂きありがとうございました。



### ●故ホビノ・サンミゲル名誉学長の追悼式

9月10日(火)キャンパス内にある修道院チャペルにて、2024年7月3日(水)に帰天された故ホビノ・サンミゲル名誉学長(享年82歳)の追悼ミサが執り行われました。

当日は、帰天ドミニコ会司祭、ジャレ神父様の司式により教職員などが参列して聖書朗読、共同祈願、聖歌歌唱等を行い、帰天されたホビノ・サンミゲル名誉学長のためにお祈りいたしました。



### ●「介護福祉事例研究報告会」を開催

6月29日(土)、社会福祉学科学生(令和3年度入学生)が、介護福祉実習第1期から第3期(450時間)の集大成として、現場実習で受け持たせていただいた利用者に対する介護過程をケーススタディとしてまとめ、発表しました。施設長、実習指導者をはじめ介護福祉士養成施設教員の方々にもご来場いただき、求められる介護についての考察、学生が育んだ自身の介護観について報告しました。



### ●2024年度「看護学科臨地実習連絡会議」を開催

7月3日(水)、「看護学科臨地実習連絡会議」を開催しました。

臨地実習でお世話になっている実習施設の管理者・指導者の方々40名にご出席いただき、卒業生の国家試験合格状況、就職の状況、および看護実践能力・看護技術の到達度状況をご報告いたしました。また、本年から新カリキュラムでの領域別実習が開始となることや学生数が多い3年生の実習について、種々の変更点を説明し、ご協力をお願いしました。会議後半では、実習施設の方々と本学教員とが小グループに分かれ、本学への要望や学生の指導上の課題についての意見交換を行い、実習指導に関する話題のみならず、施設間どうしの情報共有や連携の場となったとの好評価もいただきました。ご多忙の中、ご参加いただいた方々に、心より感謝申し上げます。



## ●松山市文化・スポーツ振興財団×聖カタリナ大学『アダプテッド・スポーツ体験教室』を開催

7月13日(土)、北条スポーツセンター体育館において、松山市文化・スポーツ振興財団と本学の連携事業として、『工夫』で楽しむスポーツ体験会(アダプテッド・スポーツ体験教室)が開催されました。アダプテッド・スポーツとは、性別や年齢、体力や運動能力に関わらず、誰もが参加できるようにスポーツのルールや用具を工夫し、する人に適合(adapt)させたスポーツのことです。

今回は応募のあった松山市内の小学校や特別支援学校の生徒たちとその保護者の方46名と、本学「障がい者スポーツ」履修学生のうち26名が参加し、授業内で学生が考案したアダプテッド・スポーツ4種目(①風船バレー、②にじいろサッカー、③車いすドッジ、④ブラインド鬼ごっこ)を実施しました。アダプテッド・スポーツは特別なスポーツではなく、その場にいる全員が楽しめるよう工夫するスポーツですので、当日参加した子どもたちからの意見を反映したルール変更なども行い、オリジナルのスポーツを体験することができました。



## ●教育実習報告会を開催

8月7日(水)、健康スポーツ学科では教育実習報告会を開催しました。この報告会は毎年、教育実習へ行った4年生が実習での体験を報告し、研究授業を実際に行うことで下級生の学びにつなげることを目的に開催されています。今年度は教職課程を履修する4年生5名、2、3年生計27名の他、現在、実際に教員として勤務、もしくは教職大学院に通っている卒業生3名が参加しました。報告会や研究授業終了後は質問やフィードバックが行われ、学年を超えて活発な意見交換がなされました。健康スポーツ学科ではよりよい保健体育科教員を養成すべく、これからも様々な取り組みをしていきたいと思っております。



## ●第24回保育学科公開講座リカレントセミナーが開催

8月20日(火)、第24回保育学科公開講座リカレントセミナーが開催されました。本学の卒業生、保育現場や児童福祉施設等で働かれている方々を対象として、第Ⅰ部は本学教員による3つの講座、第Ⅱ部は特別講師、「おはなし屋えっちゃん」として知られる武知悦子氏による、愉快でエネルギーあふれる講座があり、全講座合わせて延べ121人の参加がありました。ご参加していただきましたみなさま、ありがとうございます。

卒業生たちは、「久しぶりに母校に戻り、学生時代にタイムスリップして英気を養えた」と喜ばれていました。現場でのご活躍を心よりお祈りいたします。



## ●「24時間テレビ47」のチャリティーイベントブース出店

9月1日(日)、南海放送本町会館1階で開催された「24時間テレビ47」のチャリティーイベントブースに出店しました。

本学ブースでは3種類のドミニカンクッキーと大学オリジナルトートバッグを販売しました。

ご来店いただきました皆様に心より感謝を申し上げます。

収益金は、24時間テレビチャリティー募金に全額寄付いたしました。



### ●第3回鍵盤楽器コンサート（ピアノ編）を開催

9月6日（金）、文化や芸術について広く興味を持ってもらおうと、地元の小学生を対象に北条市民会館で「鍵盤楽器コンサート」を開催しました。このコンサートは本学と松山市文化・スポーツ振興財団の連携協定に基づき開催しています。3回目となる今回は、本学保育学科の非常勤講師でピアニストの尾海あかり氏がクラシック曲や、スタジオジブリ・ディズニーアニメのメドレーなどを演奏。加えて、同学科 和泉昌枝 助教との連弾や、本学の「ハンドベルリンガーズ（部）」とのアンサンブル曲も演奏しました。

最後は、各校代表児童によるトーンチャイムの演奏と、会場の皆さんの歌声で「さんぽ」を演奏。楽しい雰囲気の中、演奏会を終えることができました。

今後もこのような活動を通して、地域に貢献していきたいと思います。



### ●健康スポーツ学科・中川雅智准教授らが日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会で発表賞を受賞

8月29日（木）～8月31日（土）、福岡大学にて開催された日本体育・スポーツ・健康学会第74回大会において、中川雅智 准教授、今城 遥 助教が発表した演題「異学年合同授業による保健科模擬授業が省察の変容に及ぼす影響」が、保健専門領域の発表賞を受賞しました。

この研究は、本学教育職員免許状取得のための開講科目である「保健体育科教育法Ⅰ～Ⅳ」の授業を対象に行われている研究の一つで、「保健体育科教育法Ⅱ（2年次）」と「保健体育科教育法Ⅳ（3年次）」の合同授業で実施された模擬授業が、学生の省察（リフレクションシート）の記述にどのような影響を与えているか、といったことを明らかにしています。全国の小規模大学が抱えている課題の一つである少人数での模擬授業を、複数学年で実施することによって解消できるかを検証する研究の一つであり、現在もその取り組みは進行中です。

この研究が教職課程を履修している学生の深い学びや教師効力感の向上に繋がり、教職への就職率が高まるよう教職課程委員会としても継続して取り組んでいきたいと思っています。



### ●愛媛県立北条高等学校との高大連携に関する協定調印式について

9月30日（月）、聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部と愛媛県立北条高等学校との高大連携に関する協定調印式が北条キャンパスで行われました。

調印式では、北条高等学校校長 渡邊 俊 様と聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部 坂原 明 学長が協定書を交わしました。

今後、本学で展開されている特色ある教育・研究に関する連携、高校の授業への大学教員の派遣など様々な分野での教育連携事業が推進される予定です。

協定締結の目的・連携協力事項は以下の通りです。

#### 1. 目的

大学と高校が包括的連携のもとに、教育・研究・文化・スポーツ等の分野で相互に協力し、学校教育の振興並びに地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とし、相互協力・連携体制を構築するために締結する。

#### 2. 連携協力事項

- (1) 教育・研究に関する連携
- (2) 高校の授業への大学教員の派遣
- (3) 高校生の大学授業の聴講
- (4) 施設設備の相互利用
- (5) 文化・スポーツ活動及び社会活動における交流
- (6) その他、双方が協議し同意した事項



◆◇ 令和6年度前期行事 (R6.4.1 ~ R6.9.30) ◇◆

月	日	曜	区	行 事		
4	1	月	大	新任教職員研修		
			短	健康スポーツ学科会議		
	2	火	大	大	全学教授会、選考教授会、人間社会学科会議、社会福祉学科会議	
				短	教授会、人事教授会	
	3	水		入学式		
	4	木		オリエンテーション (~4/5)、学生生活委員会		
	6	土		カタリナウエルカムキャンパス		
	8	月		会計監査 (~4/9)		
	9	火	大	カタリナウエルカムキャンパス		
	10	水	大	教務委員会松山市駅キャンパス会議		
	17	水	大	短	【合同】入試・募集委員会	
				短	看護学部教授会、看護学科会議、健康スポーツ学科会議、社会福祉学科会議	
				短	保育学科会議	
	20	土	短	保育学科オープンキャンパス		
	22	月		FD委員会		
	24	水	大	短	就職委員会、キリスト教研究所所員会議	
				短	人事委員会、研究科委員会	
	26	金		学生生活委員会		
	27	土		理事会		
	29	月		学園創立記念日		
	5	1	水	大	人間健康福祉学部教授会、選考教授会、学部長会議、看護学科運営会議、教務委員会松山市駅キャンパス会議	
				短	教授会	
		8	水	大	母をたたえる日	
		9	木		将来計画委員会、会計監査 (~5/10)	
		14	火		人間文化研究所所員会議	
		15	水	大	短	母をたたえる日
					短	社会福祉学科会議、看護研究会地方企画会議、看護学部教授会、看護学科会議
16		木	大	短	保育学科会議	
				短	財務委員会	
19		日	大	短	オープンキャンパス	
				短	看護学科教育懇談会	
22		水	大	教務委員会北条キャンパス会議、研究科委員会		
23		木	大	短	ボランティアセンター運営委員会	
				短	大学評価委員会	
25		土		評議員会・理事会		
29	水		教学マネジメント委員会			
6	5	水	大	教務委員会松山市駅キャンパス会議		
			短	教授会		
	6	木	大	研究倫理委員会、人事委員会		
	7	金		おでかけキャンパスin松山銀天街、クラブ活動協議会		
	8	土		後援会役員会		
	12	水	大	短	全学教授会、学部長会議、看護学科会議	
				短	保育学科会議	
	17	月		学生生活委員会		
19	水		大学説明会			
21	金	大	教職課程委員会			
26	水	大	社会福祉学科会議、健康スポーツ学科会議、研究科委員会			
27	木	大	人事委員会			
28	金		大学見学会 (今治精華高校通信制)			
29	土		評議員会・理事会			
7	1	月		ボランティアウィーク (~7/5)		
	3	水		情報ネットワークシステム運営委員会		

月	日	曜	区	行 事	
7	3	水	大	研究倫理委員会	
			短	教授会、中予私立幼稚園連盟合同就職説明会	
	5	金		地域連携推進室会議、IR委員会	
	6	土	大	看護学科ホームカミングデー	
	7	日	大	オープンキャンパス	
	8	月		大学祭パイプオルガン演奏会実行委員会	
	9	火		学内企業・事業所説明会	
	10	水	大	短	人間健康福祉学部教授会、学部長会議、教務委員会松山市駅キャンパス会議
				短	保育学科会議
	13	土	大	公開講座「風早の塾」、オープンキャンパス	
	17	水	大	教職課程委員会、看護学部教授会、看護学科会議	
	18	木	大	短	衛生委員会、障がい学生支援チーム会議
				短	人事委員会
	19	金		財務委員会	
	20	土	大	ナイトオープンキャンパス、ふれあい看護体験	
	24	水	大	短	健康スポーツ学科会議、研究科委員会
				短	人事委員会
	26	金		理事会、おでかけキャンパスin松山銀天街	
	30	火		入試・募集委員会	
	8	1	木		教学マネジメント委員会
2		金	大	100周年記念事業実行員会	
			大	選考教授会、学部長会議、人間健康福祉学部教授会	
3		土		オープンキャンパス	
5		月	大	短	研究倫理委員会
				短	FD委員会
6		火		教授会	
10		土	大	オープンキャンパス	
11		日	大	オープンキャンパス	
20		火	短	短	保育学科公開講座リカレントセミナー
				短	奨学制度運営委員会、遠隔地支援制度部会、夏季S D研修会
21		水	大	短	教務委員会松山市駅キャンパス会議
	短			おでかけキャンパスin松山銀天街	
23	金		保育学科会議		
24	土		おでかけキャンパスin南予		
25	日		おでかけキャンパスin東予		
9	3	火	大	研究科委員会	
	4	水	大	理事会	
			大	教務委員会松山市駅キャンパス会議	
	5	木		第三者評価委員会	
	10	火		ホビノ・サンミゲル名誉学長追悼ミサ、S D委員会	
	11	水		卒業式・入学式に関する検討会	
	17	火		人間文化研究所フォーラム、奨学制度運営委員会	
	18	水	大	短	FD研修会
				短	学部長会議、健康スポーツ学科会議、看護学部教授会、看護学科会議
	19	木	大	短	保育学科会議
短				将来計画委員会	
20	金	大	短	人間健康福祉学部教授会	
			短	教授会	
20	金		後学期ガイダンス		
21	土		保健講話		
21	土		評議員会・理事会		
24	火	大	前学期卒業証書授与式		
25	水	大	入試・募集委員会、研究科委員会		
30	月		高大連携協定調印式 (北条高校)		

## ◆◆ 令和6年度教授会議題（前期） ◆◆

### 【全学教授会議題】

R6. 4. 2 第1回

1. 退学について
2. 休学について
3. 除籍について
4. 聴講生の受け入れについて
5. 2025（令和7）年度聖カタリナ大学及び大学院の入試概要について

R6. 6. 12 第2回

※報告・連絡事項のみ

### 【人間健康福祉学部教授会議題】

R6. 5. 1 第1回

1. 退学について
2. 休学について
3. 除籍について
4. 復籍について

R6. 7. 10 第2回

1. 科目等履修生の受け入れについて

R6. 8. 2 第3回

1. 退学について
2. 聴講生の受け入れについて
3. 前学期末卒業予定者の卒業の認定方法について

R6. 9. 19 第4回

1. 前学期末卒業の認定について
2. 退学について
3. 聴講生の受け入れについて
4. 聖カタリナ大学学部長候補者選考規程の一部改正（案）について

### 【看護学部教授会議題】

R6. 4. 17 第1回

1. 復籍について
2. 放送大学単位互換科目の再試験の可否について

R6. 5. 15 第2回

※報告・連絡事項のみ

R6. 7. 17 第3回

※報告・連絡事項のみ

R6. 9. 18 第4回

1. 退学について
2. 復学について
3. 聖カタリナ大学学部長候補者選考規程の一部改正（案）について

### 【聖カタリナ大学短期大学部教授会議題】

R6. 4. 2 第1回

1. 除籍について
2. 科目等履修生の受け入れについて
3. 2025（令和7）年度聖カタリナ大学短期大学部の入試概要について

R6. 5. 1 第2回

1. 退学について

R6. 6. 5 第3回

※報告・連絡事項のみ

R6. 7. 3 第4回

※報告・連絡事項のみ

R6. 8. 6 第5回

※報告・連絡事項のみ

R6. 9. 19 第6回

1. 休学について



## ご寄付のお願い【教育振興募金のご案内】

聖カタリナ学園は、2025年に創立100周年を迎えます。  
 聖カタリナ学園では聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部の教育事業を永続的に発展させるため、また、教育環境の維持、充実を図るための支援として、皆様からの募金のご支援を受け付けております。  
 趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### 【お問い合わせ・お申し込み先】

学校法人聖カタリナ学園 法人本部事務局 〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地  
 TEL 089-993-1300 FAX 089-992-5616





# ◆◆ 令和6年度 クラブ等 活動状況 ◆◆

R6.9.1 現在

## 体育局(部)

団体名	期 間	大会名・イベント名等	開催場所	参加人数	成績・活動内容等
クライミング部	6/15	S C J T 2024スピード第1戦	グラビティリサーチ サンガスタジアム by KYOCERA	1	男子：12位
	6/30	スポークライミングいわてカップ2024スピード大会	岩手県営運動公園オノデラ サインクライミング ベーススピード競技場	1	男子：4位
剣道部	4/7	第63回全日本女子剣道選手権大会愛媛県予選会	砥部ゆとり公園体育館	2	女子：ベスト8
	5/19	第56回中四国女子学生剣道選手権大会	愛媛県武道館	4	女子：3回戦進出
	5/25	第39回西日本女子学生剣道大会	久留米アリーナ	4	女子：出場
	6/15	第74回四国地区大学総合体育大会	高知県立武道館	4	女子：4位
	8/4	第27回愛媛県レディース剣道大会	西条市総合体育館	3	女子：3位
硬式野球部	春季	2024年度四国地区大学野球連盟春季リーグ戦(1部)	四国地方内	—	2位：9勝6敗
サッカー部	通年	2024四国大学サッカーリーグ(1部)	四国地方内	—	2勝3敗(2024年5月18日現在)
	通年	2024インディペンデンスリーグ四国	四国地方内	—	1勝1敗1分(2024年6月2日現在)
	通年	2024年度愛媛県サッカーリーグ(1部)	愛媛県内	—	3勝1敗(2024年7月21日現在)
	通年	2024年度四国大学サッカー新人戦	四国地方内	—	出場
	6/1・8・15	2024年度四国大学サッカートーナメント	徳島県内	—	準決勝進出
女子バスケットボール部	5/11・12・18・19	2024年度全四国大学バスケットボール春季大会	観音寺市民体育館 香川大学体育館	15	優勝
	5/26	2024年度全四国大学バスケットボール新人大会	高知県立県民体育館	15	優勝(全日本大学バスケットボール新人戦出場権獲得)
	6/2~4	第73回西日本学生バスケットボール選手権大会	Asueアリーナ大阪	15	出場
	6/23・7/21・28	第100回天皇杯・第91回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会愛媛県代表決定戦	松前公園体育館、北条スポーツセンター体育館、ツインドーム重信	14	準決勝進出
	6/29・30	第74回四国地区大学総合体育大会	鳴門・大塚スポーツパークアミノバリュールホール	14	優勝
	7/8~11	第2回全日本大学バスケットボール新人戦	北ガスアリーナ札幌46	12	出場
女子バレーボール部	5/11・12	2024年度第53回四国大学バレーボール春季リーグ戦大会	高知県立青少年体育館	7	Ⅲ部優勝
ダンス部	8/10	松山まつり「野球拳おどり(団体連の部)」	松山市内	54	優秀賞「テレビ愛媛賞」
陸上競技部	6/29・30	第74回四国地区大学総合体育大会	愛媛県総合運動公園陸上競技場	4	男子：(200m 5位、100m、400m、走幅跳出場)

## 文化局(同好会)

団体名	期 間	大会名・イベント名等	開催場所	参加人数	成績・活動内容等
学生赤十字奉仕団	通年	啓発活動(献血)	愛媛県赤十字血液センター大街道出張所	—	献血の呼びかけ、献血ルーム内の案内

## その他団体

団体名	期 間	大会名・イベント名等	開催場所	参加人数	成績・活動内容等
学生ボランティアセンター	7/1~5	ボランティアウィーク	聖カタリナ大学北条キャンパス	—	フリーマーケット

# ◆◆ 人 事 ◆◆

《令和6年6月1日付け》

【新規採用】

(北条キャンパス)

総務課

技術職員(ぼけっと)(非) 藤林 幸奈

《令和6年9月17日付け》

【新規採用】

(松山市駅キャンパス)

看護学科

実習助手(非) 岡田 由香里

《令和6年9月30日付け》

【退職】

(北条キャンパス)

人間健康福祉学部

助教 雑賀 正彦

カタにゃん  
X(旧Twitter)



大学  
公式LINE



※QRコードをスキャンするとLINEの友だちに追加されます。

大学公式  
Instagram



受験希望  
の方



大学HP



保育学科  
ブログ



## ◆◇ 研究室探訪 ◇◇

聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 社会福祉学科  
教授 田中 顕悟

聖カタリナ大学人間健康福祉学部社会福祉学科・田中研究室では、「Military Social Work（以下、MilSW）」の日本での展開・援用の可能性について考究を進めるために、主にアメリカのMilSWの基礎的な資料の分析等を行っています。

2024年度の専門演習Ⅰ・Ⅱでは3年生・3名（専門演習Ⅰ）・4年生・2名（専門演習Ⅱ）が、社会福祉学科の専門科目の講義の中では学ぶ機会のない本テーマについて学びを深めています。

2024年度前期は、3年生が『*Handbook of Military Social Work*』（Wiley・2012年）に掲載されているMilSWの事例（PTSD・自死予防・DV・薬物乱用・虐待・鬱・ホームレス等）の翻訳と事例検討を、4年生は「*The Army Suicide Prevention Program – Suicide Prevention and Awareness Training for the United States Army*」（米陸軍自殺予防プログラム）の翻訳とプログラム内容の整理を行ってきました。

いずれも、社会福祉士等の養成カリキュラムの科目では取り扱われない資料であり、また、アメリカのソーシャルワークとMilitary両方の専門用語や基礎的知識の理解も必要となることから、必ずしも順調に進んだとは言い難いものでしたが、その成果をまとめることができました。多くの方々がMilitaryにおけるソーシャルワークについて違和感をお持ちになるかもしれませんが、海外に目を向けると2018年の国際会議（アメリカ・フォーダム大学主催）ではアメリカ・オーストラリア・カナダ・南アフリカ・イギリス・台湾等をはじめとする25ヶ国以上の国々で兵士とその家族（兵士の配偶者や子ども等）ならびに退役者とその家族の方々へのソーシャル

ワーク実践が確認されているという報告がありません。

MilSWはMilitaryという一職域で任務に従事している当事者と、その影響を受ける家族と、Militaryに所属していた際の活動により心身に影響を受けた退役者とその家族へのサポートを展開するものです。

具体的には、リスクの高い任務（例：災害派遣活動・戦闘場面・他国の基地への派遣）やそれともなう長期間の家族との別離や厳しい訓練等による心身への様々な影響により日常生活に支障が生じた方々へのソーシャルワークとされています。なお、アメリカでは2009年以降、Military Social Workerの養成課程を設置している大学・大学院があり、そこでのカリキュラムを修了した卒業生が活動しています。

このようなMilSWについて学びを深めることは、我が国の国防に関わる方々とそのご家族のWell-beingの向上だけでなく、将来的にはリスクの高い業務に従事する他の職業の方々（警察や消防等）や災害支援者の方々へのソーシャルワークにも応用が可能ではないかと考えています。今後はコロナ禍の影響により中断していた自衛隊駐屯地への見学やリモートによる海外のMilSW研究者との交流を検討しています。ゆっくりとした歩みとなる研究活動かもしれませんが、今後も学生・教員の二人三脚で研究成果を積み重ねていけるよう努めていきたいと思えます。

聖カタリナ大学・短期大学部学報  
〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地  
TEL. 089-993-0702(代)  
<https://www.catherine.ac.jp>  
編集・発行  
広報委員会  
[kouhou@catherine.ac.jp](mailto:kouhou@catherine.ac.jp)